研　　究

マターナル・アタッチメントと母親の養育行動および1歳児のアタッチメント行動との関連

―積木課題場面における母親の教授行動の観察研究を中心に―

小　山　里　織

〔論文要旨〕

本研究の目的は，マターナル・アタッチメントが母親の養育行動および子どものアタッチメント行動に対して影響力をもつかどうか明らかにすることであった。そのために，第1にマターナル・アタッチメントと教授行動および母親の感受性の関連を検討し，第2に教授行動および母親の感受性と子どものアタッチメント行動との関連を検討した。1歳児とその母親25組を対象として，課題場面における母子のやりとりがビデオ観察された。その結果，マターナル・アタッチメントは，「間接教授」と正相関が認められた。また，「間接教授」が多い母親の子どもほどアタッチメントQ分類法による安定性得点が高い傾向にあった。次に，課題場面において，子どもの行動が変化したときに母親がどのようなタイミングでいかなる教授行動をとるのかを検討したところ，子どもが積木以外に関心を示したときに，教授行動を続ける母親の子どもほど安定性得点が低い傾向にあった。以上の結果から，マターナル・アタッチメントは教授行動を介して子どものアタッチメント行動に影響力をもつこと，また，子どもが退屈さを示したときの子どもの行動変化に対する母親の敏速な反応や柔軟な対応が子どものアタッチメント行動に影響することが示唆された。

Key words：マターナル・アタッチメント，母親の感受性，教授行動，子どものアタッチメント行動，アタッチメントQ分類法

Ⅰ．はじめに

マターナル・アタッチメントとは，“母親のわが子に対する情緒的な結びつき”と定義され[1]，わが子との近接の喜びやわが子を守りたいという母親の感情として広く理解されている。先行研究によるとマターナル・アタッチメントの強い母親ほど母子の相互交渉は肯定的なものとして経験され，育児を喜びに感じるという[1,2]。これまでマターナル・アタッチメントは母親の養育行動にとって重要な意味をもつと考えられ疑われることはなかった。一方，母親の養育行動は子どもの発達に影響することが広く知られている[3]。養育行動とは，母子の相互作用からおこる母親の行動や態度のことであり，子どものアタッチメント行動との関連からその重要性が指摘されてきた。これらの先行研究の指摘を考慮すると，マターナル・アタッチメントは養育行動を介して子どもの発達に影響力をもつことが予測される。しかしながら，これまでマターナル・アタッチメントが養育行動や子どもの発達に影響力をもつのかについて実

The Relations between Maternal Attachment, Parenting Behaviors, and Infant-mother Attachment：An Observational Study of Mother's Teaching in Blocks Play　〔1976〕
受付 07.11.12
採用 08. 6.17
Saori Koyama
県立広島大学保健福祉学部（助産師/研究職）
別刷請求先：小山里織　県立広島大学保健福祉学部　〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
Tel：0848-60-1208　Fax：0848-60-1029

Presented by Medical*Online

証的なデータによって検討されることはほとんどなかった。本研究の目的は，マターナル・アタッチメントと養育行動および子どものアタッチメント行動との関連を検討し，養育行動および子どもの発達に対するマターナル・アタッチメントの重要性を明確にすることである。

佐藤[4,5]は，初妊婦を対象に妊娠初期から生後18か月まで追跡研究を行った。そこでは妊娠期のマターナル・アタッチメントが生後1か月を経由して，生後18か月のマターナル・アタッチメントに対して影響力をもつことが示唆された。したがって，1歳後半の子どもに対するマターナル・アタッチメントに焦点をあてることによって，多少のずれはあるが妊娠期から連続性をもったマターナル・アタッチメントの養育行動および子どものアタッチメント行動に対する影響力を示すことができると考える。

本研究では，養育行動を行動的側面と母子の情緒的交流の2つの視点からとらえる。行動的側面については，教授行動を取り上げる。母子関係において教授行動とは，母親が子どもになすべき行動の目的や方法を説明したり，レクチュアすること，あるいは，質問や示唆を与えることであり，親の養育行動の1つと考えられている[6]。1歳後半から2歳にかけて子どもは言語面での発達や，社会性，運動機能の発達に伴い，積極的に環境の探索を行うようになり，自らの行動に制止や統制を加える大人に対して，意図的な反抗や強い自己主張を始める[7]。このような子どもの発達に伴い，母親の関心はしつけに向けられる[8]。そして，子どもの基本的生活習慣の自立にむけ，母親は食事や排泄，片づけなどの日常場面において子どもに説明やレクチュアなどの教授を行うようになる[9]。先行研究によると，この時期の母親の教授行動は子どもの知的発達や認知的発達に影響力をもつことが指摘されている[10,11]。したがって，教授行動はこの時期の母親の養育行動をとらえるうえで適切な指標といえるだろう。母子の情緒的交流については母親の感受性を取り上げる。子どもの信号に対する母親の感受性は，養育行動の中でも子どものアタッチメント行動に対して影響力をもつ最も重要な側面であると指摘されていることから[3]，養育行動をとらえるうえで重要な指標といえる。

子どもの発達については，これまで多くの研究の中で子どものアタッチメント行動が，その後の子どもの発達に影響力をもつことが指摘されてきた[12,13]。子どものアタッチメント行動は子どもの発達の指標として有益なものといえるだろう。

本研究では，1歳児とその母親を対象として，第1にマターナル・アタッチメントと教授行動および母親の感受性の関連を検討し，第2に教授行動および母親の感受性と子どものアタッチメント行動との関連を検討する。

Ⅱ．方　　法

1．対象者

愛知県内に在住の母子25組。子どもの平均月齢19か月12日。男児13名，女児12名。対象児はすべて第1子である。母親の平均年齢31歳。

2．調査時期

2005年5月～2005年6月。

3．調査手続

1歳半健診を受診した母親に対して，調査者が調査依頼用紙を渡して直接説明し，口頭で承諾の得られた母親の家庭を訪問した。依頼用紙には研究目的，調査内容，プライバシーの保護，研究協力は任意であること等を明記した。

4．調査内容

調査の枠組みを表1に示した。

(1) マターナル・アタッチメント

大日向[14]の子どもに対する感情に関する項目の中から，子どもへの密着化傾向を示す9項目を用いた。項目について「4. そのとおりである」から「1. 違う」の4段階評定で回答を求めた。信頼性の検討については，$\alpha = .79$であり比較的高い内的整合性が確認された。また，この9項目はマターナル・アタッチメントを測定する代表的な尺度であるMaternal Attachment Inventory[2]との相関係数が$r = .57$であり1％水準で有意な相関が認められている[5]。したがって，基準関連妥当性が確認されていると判断した。質問紙は家庭訪問した際，母親に手渡しそ

Presented by Medical*Online

表1　調査の枠組み

調査内容		
マターナル・アタッチメント	子どもに対する感情	子どもへの密着化傾向を示す9項目
養育行動	教授行動	各行動カテゴリー(表2)
	感受性	Emotional Availability Scale
子どもの発達	アタッチメント行動	アタッチメントQ分類法（安定性）

の後郵送にて回収した。

(2)　教授行動

観察者1名が被験者宅を訪問し，家庭での母子の行動を観察した。マターナル・アタッチメントがどのような状況のいかなる教授行動と関連するかについて検討するために，自由遊び場面と課題場面の2場面を設定し，より広い範囲の日常場面における教授行動の再現に努めた。自由遊び場面では，観察者が持参した積木を用いて母親と子どもに自由に遊んでもらい，課題場面では，3～5個の積木を組み合わせたものが写った5枚のカードを用いて，カードに写った形と同じものを作るという内容の課題を実施してもらった。ビデオ録画を開始する前に，観察者が持参した積木で5分間母親と子どもに遊んでもらい，子どもがビデオカメラや観察者を意識しなくなってから撮影を開始した。ビデオ録画は前半と後半各5分間の計10分間である。

(3)　母親の感受性

Emotional Availability Scale[15]の中の感受性尺度（9段階）を用いた。評定対象場面は自由遊び場面と課題場面である。信頼性の検討については，ランダムに選択した6ケースについて，筆者以外に心理学専攻の大学院生1名が評定を行い，評定者間の一致率を算出した。評定値が一致した率は.83であった。評定者間で不一致の値は協議のうえ決定した。

(4)　子どものアタッチメント行動

Waters & Deane[16]によって開発されたアタッチメントQ分類法の相互翻訳版を用いた。アタッチメント行動の評定では，まず，子どもの安全基地行動を中核とするアタッチメントの種々の側面における90項目について，子どもに「最も合致する」から「最も合致しない」までの9段階に10項目ずつ振り分ける。その結果，安定したアタッチメントを形成している子どもを想定した標準分類との相関値からアタッチメント行動を評定する。本研究では，標準分類と今回測定したアタッチメントQ分類法による記述との相関値から安定性得点を算出した。安定性得点は相関係数であり，正の値が出れば安定性が高いと判断される。ビデオ録画終了後，1時間半から2時間子どもの行動観察を行った。分析では，最初に90枚のカードの分類を行い，次に質問紙とビデオ分析を行った。最後にアタッチメントQ分類法の統計処理をして安定性得点を算出することで質問紙とビデオ分析のバイアスを防いだ。

5．ビデオの分析方法

ビデオ録画をもとに母子の行動カテゴリーを設定した。表2の行動カテゴリーは全ビデオ録画からすべての母子の行動を抽出し，それらの行動を分類したものである。すべての対象者の分析時間を揃えるために，10分間のビデオ録画のうち，前半5分の最初と最後の1分，後半5分の最後の1分を除去し，自由遊び場面3分と課題場面4分を分析対象とした。分析対象となった7分間を5秒1ユニットとして84ユニットに分割し，1ユニット毎に生じた行動についてチェックした。母親の行動はダブルカウントせず，原則として1ユニットの中で最も主要な行動1つを評定した。信頼性の検討については，ランダムに選択した3ケース252ユニットについて，筆者以外の心理学専攻の大学院生が独立に評定し，一致率を算出した。母親の行動カテゴリーは$\kappa = .90$，子どもの行動カテゴリーは$\kappa = .97$と満足のできる一致率を得た。不一致の場合は協議のうえで決定した。

Ⅲ．結　　果

母親の行動カテゴリーの中で頻度の高かっ

Presented by Medical*Online

表2 母親と子どもの行動カテゴリー

カテゴリー	定義	内容	生起回数 自由場面	生起回数 課題場面
母親				
直接教授	命令や指示というやり方で直接的に関わる	課題を実施する，積木を子どもに手渡す，子どもの誤りを修正する	89	353
間接教授	子どもの調整役として間接的に関わる	ほめる，励ます，手をたたいて喜ぶ，手伝う，カードを見せる，言語による誘い	300	525
単独実施	単独で課題を実施する	子どもに話しかけることはなく一人で積木を行う，カードを一人で見る	3	33
強制	課題をするように強制する	連れ戻す，他のおもちゃを片付ける，カードを取り上げる	2	29
教授なし	積木に触れない，子どもを方向づけない	何もせずに子どもの行動を見ている，単なる呼びかけ，積木とは関係ない行動や発話	484	216
その他	積木遊び以外の子どもの要求に従う	積木以外のおもちゃで子どもと遊ぶ	22	44
子ども				
積木遊び	積木で遊ぶ	積木で遊ぶ，積木を叩いて音を出す，母親が積木をしているところを見る	679	664
積木以外	積木以外の遊びをする	積木以外のおもちゃで遊ぶ，積木をなめている，積木を投げる，ビデオカメラに興味を示す	221	536

注．母親が「カードをめくる」行為は前後の行動を考慮して分類した。

表3 母親と子どもの行動の組み合わせ

母親	子ども	生起回数 自由場面	生起回数 課題場面
直接教授	積木	60	184
直接教授	積木以外	29	169
間接教授	積木	273	374
間接教授	積木以外	27	151
教授なし	積木	363	86
教授なし	積木以外	121	130

た「直接教授」，「間接教授」，「教授なし」については，子どもが積木をしているか，積木以外の行動をしているかによってさらに母親の行動カテゴリーを分類した（表3）。このうち自由遊び場面の「直接教授—積木」，「直接教授—積木以外」，「間接教授—積木以外」と課題場面の「教授なし—積木」は，生起回数が少なかったため，これらの行動カテゴリーを除いて後の分析を行った。

1．マターナル・アタッチメントと教授行動および母親の感受性の関連

マターナル・アタッチメントと各行動カテゴリーおよび母親の感受性の相関係数を表4に示した。マターナル・アタッチメントは課題場面の「間接教授—積木」との間に正相関が認められたが，自由遊び場面の各行動カテゴリーや感受性との間には有意な相関は認められなかった。

2．子どものアタッチメント行動と教授行動および母親の感受性の関連

子どものアタッチメント行動と各行動カテゴリーおよび母親の感受性の相関係数を表5に示した。安定性は自由遊び場面の「間接教授—積木」との間に正相関が認められ，課題場面の「直接教授—積木以外」との間に負の相関，「間接教授—積木」との間に正相関が認められた。また，安定性と感受性との間には正相関が認められた。

Presented by Medical*Online

表4　マターナル・アタッチメントと各行動カテゴリーおよび母親の感受性との相関

	自由場面			課題場面					感受性
	間接教授—積木	教授なし—積木	教授なし—積木以外	直接教授—積木	直接教授—積木以外	間接教授—積木	間接教授—積木以外	教授なし—積木以外	
マターナル・アタッチメント	.28	.21	−.28	.18	−.33	.50**	−.17	−.18	.15

*p＜.05　**p＜.01

表5　子どものアタッチメント行動と各行動カテゴリーおよび母親の感受性との相関

	自由場面			課題場面					感受性
	間接教授—積木	教授なし—積木	教授なし—積木以外	直接教授—積木	直接教授—積木以外	間接教授—積木	間接教授—積木以外	教授なし—積木以外	
安定性得点	.44**	.10	−.18	.08	−.63**	.46**	.00	−.15	.70**

*p＜.05　**p＜.01

3．マターナル・アタッチメントと子どものアタッチメント行動の関連

マターナル・アタッチメントと子どものアタッチメント行動の相関関係を検討したところ，マターナル・アタッチメントと安定性との間には有意な相関は認められなかった。

4．子どもの行動移行に伴った母親の行動

4分間の課題場面における子どもの行動を時系列的に見ると，積木遊びから積木以外の行動（以下，〈積木→積木以外〉）に移行する場面が多く見られた。また，子どもの行動移行に伴いそれまで何らかの教授をしていた母親の行動が「教授なし」へ移行する場面が見られた。ここでは，マターナル・アタッチメントと子どもの行動が〈積木→積木以外〉に移行後，母親の行動が「教授なし」へ移行するまでの時間（以下，行動移行時間）および子どものアタッチメント行動の関連について検討した。Ainsworth ら[3]によると，Bタイプの子どもの母親は相対的に感受性および情緒応答性が高く，しかもそれが一貫しており予測しやすい。そして，こうした母親の関わりによって子どものアタッチメント行動は安定したものになるという。「教授なし」への移行は，母親が子どもの行動変化に気付き，教授を一旦止め，子どもが何をしたいのか理解しようとしていることを表していると考える。Ainsworth ら[3]の指摘を考慮すると，アタッチメント行動が安定している子どもの母親ほど子どもが〈積木→積木以外〉に移行後，行動移行時間が短いことが予測される。分析対象者は子どもの行動が全く移行しなかった6組を除く19組の母子である。1組の母子間において課題場面中〈積木→積木以外〉が複数あり，それぞれの母親の行動移行時間が異なる場合は，より頻度の高い時間を選択した。19名中1名の母親は〈積木→積木以外〉に移行する以前から「教授なし」で，移行後も「教授なし」であった。この場合の母親の行動は〈積木→積木以外〉に移行直後「教授なし」としてカウントした。図1は子どもの行動が〈積木→積木以外〉に移行したときの母親の行動移行時間と子どもの安定性得点の関係を示したものである。安定性得点を

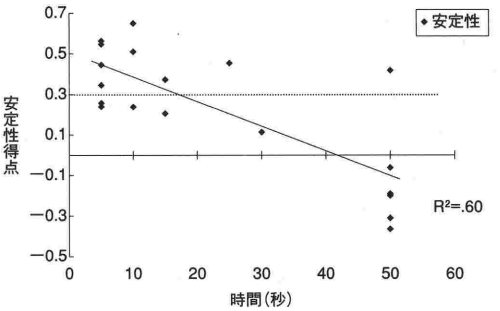

図1　子どもの行動が〈積木→積木以外〉に移行したとき母親の行動が「教授なし」へ移行するまでの時間（秒）と子どもの安定性得点の関連（n＝19。通常 .30以上で安定型のアタッチメントを形成していると判断される）

Presented by Medical*Online

従属変数，母親の行動移行時間を独立変数とする単回帰分析を行ったところ，標準偏回帰係数は－.77と有意な負の関連が示され，重相関係数の二乗は.60（F（1,17）＝25.1，p＜.01）と有意であった。一方，母親の行動移行時間を従属変数，マターナル・アタッチメントを独立変数とする単回帰分析を行ったところ，有意な関係は認められなかった。

Ⅳ．考　　察

1．マターナル・アタッチメントと教授行動および母親の感受性の関連

マターナル・アタッチメントの強い母親ほど，子どもが積木をしているときに間接的な教授をする傾向があった。子どもにとって1歳後半から2歳の時期は，親からの分離―個体化が急速に進む，自我発達上重要な時期として位置づけられる[17]。一方，母親にとってこの時期は，それ以前のように子どもと密着した関係だけでなく，子どもが自ら巣立っていくように方向付けることが重要となる[18]。したがって，この時期の母子関係において，ほめたり，励ますといった間接教授は重要な意味をもつ養育行動の1つといえるだろう。本研究によって示されたマターナル・アタッチメントと間接教授の間の有意な正相関は，母子関係におけるマターナル・アタッチメントの重要性を示唆するものと考える。もちろん，課題場面における教授行動を日常の養育行動に一般化するには限界があることは否定できない。しかし，本研究結果は，マターナル・アタッチメントと養育行動との関連を示す基礎的な資料となると考える。マターナル・アタッチメントが，自由遊び場面ではなく課題場面の間接教授との間に関連が認められた点については，子どもを統制する必要のある場面の教授行動とマターナル・アタッチメントが関連していることを示唆している。

2．子どものアタッチメント行動と教授行動および母親の感受性の関連

自由遊び場面と課題場面において安定性と「間接教授―積木」との間に正相関が認められた。安定性の高い子どもの母親は，日常場面において制約の強さに関係なく子どもが何かに集中して取り組んでいるとき，子どもの調整役としてほめたり，励ますといった関わりが多いことがうかがえる。母親の感受性と子どもの安定性との関連については，Ainsworth ら[3]の研究を追試したいくつかの研究において，子どものアタッチメント行動に対する母親の感受性の重要性が指摘された[19,20]。しかし，それらの研究は子どもに対する母親の刺激の量に注目したり，一部の行動指標とアタッチメント・パターンとの関連から母親の感受性の重要性を指摘するものであり，Ainsworth ら[3]の主張について，部分的な支持に留まっていたといえる。本研究によって，母親の感受性と安定性との間にr＝.70と強い相関が認められたことから，「母親の感受性が子どものアタッチメント行動の質を予測する」という Ainsworth ら[3]の指摘を支持する確かな知見が得られたと考える。

3．マターナル・アタッチメントと子どものアタッチメント行動の関連

マターナル・アタッチメントと子どものアタッチメント行動との間に直接的な関連は認められなかった。しかし，ここまでの結果から，マターナル・アタッチメントと関連のある「間接教授―積木」と安定性との間には正の相関が認められたことから，マターナル・アタッチメントは間接的な教授行動を介して，子どものアタッチメント行動に影響力をもつことの可能性が示唆された。ただし，本研究では因果関係の検討を行っていないため結果の解釈は慎重になされるべきである。

4．子どもの行動移行に伴った母親の行動

子どもの行動が〈積木→積木以外〉に移行してから母親の行動移行時間が短いほど子どもの安定性得点が高い傾向にあることが示された。これらの結果は，単に子どもが積木以外の行動をしたときの「教授なし」の効果を示すものではなく，子どもの行動変化に母親が気付き，教授をやめるまでの時間と子どものアタッチメント行動の関連を示したものである。子どもの関心が積木以外に向いたとき，子どもへの教授を長く続ける母親は，母親自身が課題遂行に夢中になり，子どもの変化に気付くことができな

Presented by Medical*Online

い，あるいは，子どもの変化に気付いても課題を子どもに押し付ける傾向があるといえる。おそらく，このタイプの母親は日常の子どもとのやり取りにおいても，子どもの要求を適切に把握することが困難であり，子どもに対して支配を続ける傾向があるのではないだろうか。したがって，そのような母親の関わりが安定性の低さに影響していると考えられる。逆に，子どもの行動変化後，すばやく教授をやめた母親は，日頃から子どもの変化にすばやく反応すると同時に，子どもの行動を見守り子どもの要求を理解しようするのではないだろうか。結果として，そのような母親の関わりが安定性の高さに影響していると考えられる。

マターナル・アタッチメントが母親の行動移行時間に影響していなかった点については，マターナル・アタッチメントが養育行動に重要となるという先行研究の指摘を支持するものではなかった。

V．まとめと今後の課題

本研究では，マターナル・アタッチメントが，課題場面という制約の強い場面の母親の間接的な教授行動を介して，子どものアタッチメント行動に影響力をもつこと，子どもが積木以外に関心を示したときの，子どもの要求に対する母親の敏速な反応や対応が，子どものアタッチメント行動に対して影響力をもつことが示唆された。しかし，子どもの変化に対する母親の敏速な反応や対応に対してマターナル・アタッチメントは影響力をもたなかった。以上の結果から，マターナル・アタッチメントは，養育行動全般に影響するのではなく，一部の養育行動を介して子どものアタッチメント行動に間接的な影響力をもつことの可能性が示唆された。これらの結果はマターナル・アタッチメントと養育行動および子どもの発達の関係を詳細かつ実証的に示した新たな知見といえるだろう。ただし，本研究の主な結果は，相関関係から得られたものであるため，養育行動や子どものアタッチメント行動に対するマターナル・アタッチメントの予測力を示すことはできなかった。今後，より大きな母集団によって，本研究結果を再検証することが必要である。

謝　辞

本論文の作成にあたり，ご指導いただきました名古屋大学大学院教育発達科学研究科氏家達夫先生に深く感謝いたします。また，調査にご協力いただきましたお子さんとお母様に心より感謝いたします。

文　献

1) Condon JT, Corkindale CJ. The assessment of parent-to-infant attachment : Development of a self-report questionnaire instrument. Journal of Reproductive and Infant Psychology 1998 ; 16 : 57-76.
2) Müller ME. A Questionnaire to Measure Mother-to-Infant Attachment. Journal of Nursing Measurement 1994 ; 2 : 129-141.
3) Ainsworth MDS, Blehar MC, Waters E, et al. Patterns of attachment : A psychological study of the Strange Situation. Hillsdale, NJ : Lawrence Erlbaum Associates, 1978.
4) 佐藤里織．初妊婦における胎児に対するattachment（きずな）が新生児に対するattachmentに及ぼす影響．日本看護科学会誌　2004 ; 24 : 72-80.
5) 佐藤里織．妊娠期および出産後におけるMaternal Attachmentと母親の育児態度との関連―妊娠初期から出産後18か月までの縦断研究―．小児保健研究　2005 ; 64 : 507-514.
6) 東　洋，柏木惠子，Hess, RD．母親の態度・行動と子どもの知的発達：日米比較研究．初版．東京：東京大学出版会，1981.
7) Wenar C. On negativism. Human Development 1982 ; 25 : 1-32.
8) 坂上裕子．歩行開始期における母子の共発達：子どもの反抗・自己主張への母親の適応過程の検討．発達心理学研究　2003 ; 14 : 257-271.
9) 近藤洋子．しつけと生活習慣自立の基本．小児科　2005 ; 46 : 1697-1702.
10) Chintana W, Barnard K, Spieker S. Factors affecting toddler cognitive development in low-income families : Implications for practitioners. Infant & Young Children 2003 ; 16 : 175-181.
11) Banerjee P, Tamis-LeMonda C. Infants' persistence and mothers' teaching as predictors of toddlers' cognitive development. Infant Behav-

Presented by Medical*Online

ior & Development 2007；30：479-491.

12) Matas L, Arend RA, Sroufe LA. Continuity of adaptation in the second year：The relationship between quality of attachment and later competence. Child Development 1978；49：547-556.

13) Waters E, Wippman J, Sroufe LA. Attachment, positive affect, and competence in the peer group：Two studies in construct validation. Child Development 1979；50：821-829.

14) 大日向雅美. 母性の研究. 初版. 東京：川島書店, 1988.

15) Biringen Z, Robinson JL, Emde RN. Emotional Availability Scale. Unpublished manuscript：University of Colorado Health Sciences Center, 1998.

16) Waters E, Deane KE. Defining and assessing individual differences in attachment relationships：Q-methodology and the organization of behavior in infancy and early childhood. Bretherton I, Waters E. eds. Growing points in attachment theory and research. Monographs of the Society for Research in Child Development：Vol.50. Chicago：University of Chicago Press, 1985：41-65.

17) Mahler MS, Pine F, Bergman A. The psychological birth of the human infant. New York：Basic Books, 1975. 高橋雅士, 織田正美, 浜畑紀訳 乳幼児の心理的誕生：母子共生と個体化. 名古屋：黎明書房, 1981.

18) 根ヶ山光一, 子育てと子別れ. 根ヶ山光一, 鈴木晶夫（編）. 子別れの心理学：新しい親子関係像の提唱. 東京：福村出版, 1995：12-30.

19) Belsky J, Rovine M, Taylor DG. The Pennsylvania infant and family development project, Ⅲ：The origins of individual differences in infant-mother attachment：Maternal and infant contributions. Child Development 1984；55：718-728.

20) Egeland B, Farber EA. Infant-mother attachment：Factors related to its development and changes over time. Child Development 1984；55：753-771.

〔Summary〕

At first, we examined the relationship between maternal attachment (e.g., pleasure in proximity, feelings of warmth) and both the mother's teaching (direct teaching and indirect teaching) and maternal sensitivity by the Emotional Availability Scales in this study. Secondly, it examined the relationship between both the mother's teaching and maternal sensitivity, and infant-mother attachment by the Attachment Q-sort. Participants were 25 mothers and their infants.

Maternal attachment was found to relate positively to mother's 'indirect teaching' (e.g., praise and assistance behavior). The infants of those mothers tended to have higher Q-sort security scores. Children whose mothers continued teaching them after they had lost interest in the activity had lower Q-sort security scores.

These results indicate that maternal attachment influenced the mother's 'indirect teaching', and in turn the latter affected the infant-mother attachment. The results suggest that the mother's prompt responsiveness against the change of her child's behavior and flexibility in teaching influence infant-mother attachment when a child begins to show boredom in the play.

〔Key words〕
maternal attachment, maternal sensitivity, mother's teaching, infant-mother attachment, Q-sort

Presented by Medical*Online